

寄贈品コーナー

2011年 新着資料展 人文部門

会期：4月29日（金）
～6月5日（日）

民俗部門では、平成22年度に28件200点余りの資料を受け入れました。この中から主な資料として地曳網、デーケー（ダイカイ）、和菓子製造用具などを展示しています。地曳網は千石河岸の松本重雄氏の寄贈によるもので、櫓、竿、大漁旗など地曳船の関連用具も展示します。

デーケーは中に赤飯を入れ祝儀不祝儀の贈答に用いる容器で、平塚周辺地域に特有の民具です。新たに北金目中久保地区と片岡の大澤迪之家から寄贈された2点はどちらも特徴があります。中久保地区のデーケーには、大正12年に新調されたことと使用者12名の連名が墨書されています。従来館蔵資料では旧家1軒の姓名が墨書された例がほとんどでしたが、この資料は地域でデーケーを共有していたことの証しとなります。大澤家のデーケーは明治42年に求められたもので、形が一般的なお椀型ではなく、重箱型なのが特徴です。

平成22年秋に閉店した横内の和菓子店“春月堂”から打菓子の木型など多数の和菓子製造道具が寄贈されました。“春月堂”は明治2年創業の老舗で、太平洋戦争中に海軍火薬廠へ納める煎餅を焼いた道具なども資料に含まれています。そのほか、歴史部門では従軍看護婦の制服などを展示します。



ヨウカンに模様や文字をすりこむ型紙